



土壌の物理性 150 号の企画について

編集委員長 宮本 輝仁

1959年に学会誌「土壌の物理性」が創刊されて以来、63年目にして第150号を発刊することになりました。この栄えある第150号の発刊に際して、編集委員長として関わらせていただいたことに大変感謝しております。

「土壌の物理性」では、これまでに第50号、第100号において「土壌物理研究のレビュー」や土壌物理研究の今後の方向性を示すような企画がなされ、学会としても大変盛況であったことと思われまふ。ただ、その当時を知る学会員の方々が少なくなる中で、これまで諸先輩方が築き上げてきたものを次の世代にどのように引き継いでいくかが大きな課題となっていると感じまふ。第150号では「受け継がれていくもの」をテーマに次の世代に何を引き継げるのかを検討し、3つの企画を考えまふ。

1つ目は、世界的に著名な研究者から若い研究者に向けたメッセージを頂くことです。本企画では、TDRを使った土壌水分計測の創始者であるTopp氏と水分特性曲線-不飽和透水係数連結モデルで有名なvan Genuchten氏、土壌物理現象のモデル化が得意なOr氏にメッセージを寄せていただきました。彼らの語る一言一言が若い研究者だけでなく、学会員の皆様の心に響くものがあると思いまふ。Topp氏とvan Genuchten氏の主要業績については「古典を読む」でも取り上げていますので、この機会にご一読いただければ幸いです。

2つ目は、土壌物理学の新しい手法を作った日本人研究者に、自らの研究について語っていただくことです。本企画では、マルチセンサーの先駆けといえるthermo-TDRについて登尾氏に着想から研究開発と今後の展望等について語っていただきました。この企画を通じて、若い研究者が独創的な研究を行うためのヒントが得られることを期待しております。

3つ目は、「みんなのミニレビュー」と称して広く学会員の皆さんに、これからの土壌物理学の展開について書いていただくことです。ホームページ等を通じて公募したところ、72名の学会員の方々から原稿を寄せていただきました。寄せられたミニレビューを拝見し、改めて土壌物理研究者の研究テーマの多様性を感じまふ。どのミニレビューも一気に読める興味深いものとなっておりますので、気になったものから読んでいただくとよいように思いまふ。また、溝口氏と杉野氏には、集まらまふミニレビューについて、テキストマイニングという手法を使って、現在の学会員の研究動向を探っていただきました。「みんなのミニレビュー」の後に分析結果を示したため、ミニレビューと併せてお楽しみください。集まらまふミニレビューの研究テーマが、次代を担う研究者や他の関連分野の研究者にとっても参考資料となれば、望外の喜びです。

最後に、本企画の立案から編集まで、様々な形でご協力いただきました。取出会長、諸泉副会長はじめ事務局、編集委員会の皆様と本企画に賛同してご協力いただきました全ての学会員の皆様にお礼申し上げます。